

巻頭言

学問のすすめ - 温故知新 -

大阪河崎リハビリテーション大学 学長

山田 龍 作

学問や教育が大切である事は、国や洋の東西を問わず、異論の無いところであると思います。日常の生活や身近な教育の現場で、その事がどのように理解され、反映されているのでしょうか、私自身の体験や経験からそれらの事について考えてみたいと思います。

明治時代、文明開化の奔流の中で日本の若者達の教育や社会の進歩に、大きな影響を与えた書物に、福沢諭吉の著した“学問のすすめ”があります。その響に倣い、私の考える現代の学問のすすめについて述べたいと思います。

しかし、新しい事や未来を予知する為には、過去の歴史に学ばねばなりません。これを「温故知新」“Learn a lesson from the past.”と云いますが、これは孔子の言葉の一つであり、人口に膾炙しています。孔子（前552年—前479年）は、中国、山東省曲阜（魯国の首都であった）に生まれ儒学を創出しました。彼の教えは論語や四書五経として後世に伝えられました。その「論語」冒頭の言葉に「学んで時に之を習う、亦説（よろこ）ばしからず乎。朋有り遠方より来る、亦樂しからず乎。人知らずして、慍（うら）みず亦君子ならず乎。」とあります。その意味するところは、学問の仕方や学習の悦びについて語り、志を同じくする友達が訪ね来て、学問について語り合う悦びに付いて述べ、自分の学識の高さについて世間が知らなくても別に怒る事のない人格者、君子でありたい、と述べています。また孔子は、「之を知る者は、之を好む者に如かず。之を好む者は、之を楽しむ者に如かず。」とも述べ学問の楽しさや勉強の仕方について語っています。更に「学んで思はざれば、則ち罔（くら）し。思いて学ばざれば、則ち殆（あやう）し。」学ぶだけでなしに自分で考える事の重要性についても述べています。

さて、私は1985年頃、和歌山県立医科大学に奉職していましたが、和歌山県と中国山東省が姉妹提携を結ぶことになりました。そして提携成立後の訪中使節の一員として山東省（人口8千万人）を訪れ省内の幾つかの医科大学で学術講演を行った後、観光目的で孔子の生まれ故郷であり、終焉の地である山東省の曲阜を訪れました。なんと、曲阜には3千に余る歴史的建造物があり、それらは全て、孔子と其の祭祀にかかわる建造物で孔廟（孔子と其の歴代子孫の墓所）や孔林などの建物群でありました。孔廟は殆ど北京の紫禁城に匹敵する威容とサイズがありました。そして驚くべきは、現代の曲阜市の人口の殆どが孔子の子孫とその弟子達の一族で構成されていて、その全てが、孔子の祭祀にまつわる仕事で生活していることでありました。言い換えれば、孔子の教え、孔子の学問が2千数百年に渡ってその子孫を繁栄させ、一族を養ってきた訳であります。その間、2千数百年の間に、どれだけ多くの国や王朝や大帝國が興廢して行ったことか。孔一族と其の子孫は、その間を時代の荒波によく耐えて、一代も途絶えることなく、生き延びて繁栄してきたわけであります。彼らは強大な権力や

軍事力を持っていた訳でも、巨大な事業や財産を持っていた訳でもありません、ただ、学問の伝統を受け継ぎ広めて来たに過ぎません。今日の巨大企業が呆気なく経営不振に陥り、倒産したり、他の企業に吸収合併されて仕舞うのを見聞きするにつけ、孔子の子孫とその一族が今日まで繁栄を保ち存続し得た事は正に驚異であり奇跡であるとも云えます。何が一体この様な奇跡を可能にしたのでしょうか、それは学問の力であり、真理を追究すると云う学問の持つ永遠の生命力であると云わざるを得ません。

この様な事例は中国だけのものなのでしょうか？儒教だけのものなのでしょうか？、我が国にも、我々の身近な所にもモデルが在るのです。此処で話しは再び和歌山県に戻ってゆきます。そのモデルと云うのは意外に身近な所に在るのです。それは最近、世界遺産にも登録された真言密教の霊場、高野山の事であります。すでに旅行されて、ご存知の方も多かろうと思いますが、高野山の町は紀伊半島の大変な奥深い山中の標高900mの小さな盆地に在ります。1200年前に弘法大師、空海が開いた真言密教の根本道場であります。現在も総本山の金剛峯寺を中心に多数の寺院や仏閣、僧院、宿坊などが建ち並び、住民は殆どが仏教や寺院に関係した仕事に従事し生活しています。勿論高野山大学や高野山病院もあり、人口一万数千人の独立した自治体を成しています。当時の最先端の学問の道場として開かれたこの霊場は1200年後の今日まで連綿として存続し、繁栄を保って来ている分けであります。これは正に学問の偉大さや恒久性を物語る我が国に於ける身近な例であると思います。

次に、最も現代的で身近な例を紹介しましょう。

1891年の米国、輝くようなカリフォルニアの青空と陽光の下、見渡す限りの荒野の中にスタンフォード大学は産声をあげました。大陸横断鉄道を完成させて巨万の富を築いたリーランド・スタンフォードとジェイン夫妻は結婚後18年経って初めて授かった一人息子のデビットを19歳で亡くしたのを惜しんで、巨額の私財を投じてアメリカ西海岸で最初の大学を創ったのであります。其れまで、米国では、大学と云えば、ハーバード大学を筆頭に東海岸に集中していましたから、教員を集めるのも大変で、高給を以てし、学生の授業料も無料でありました。また、その特色は工学部を中心に備えた事であり、これがスタンフォード大学の特徴となり、その名を不朽の物にした訳であります。この大学から産み出された優れた人材やIT技術、アイディアは、大学周辺のパロアルト地域に多数のベンチャー企業を産み出し、これが更に成長し、この地域を世界一のIT産業の工業地帯－シリコンバレーに変え、20世紀から21世紀に亘って、アメリカの経済と産業を支え、世界を牽引する事に成ったのは周知のとおりであります。Apple、Google、Yahooなどの会社がその一部の例であります。

結論として、学問の偉大な力や恒久性について述べてきましたが、今日其れを担うのは大学であります。そこで大阪河崎リハビリテーション大学が優れた建学の精神の基に築かれ、高邁な理念により支えられ、その理想を信じる人達によって善く受け継がれ、支えられるならば、其れは必ずや世に知られ、時代をこえて、新しい世界を創る源流となり得るものと信じています。